音楽科学習指導案

日　時　令和５年２月２日（木）
　　６校時 14：20～15：05
学校名　文京区立青柳小学校
対　象　第３学年３組　　28 名
会　場　４　階　　音　楽　室
授業者　指導教諭　　金田　美奈子

１　題材名　　音が重なり合うおもしろさを感じ取ろう（小学生の音楽３：教育芸術社）

２　題材の目標

(1)　旋律の重なりや反復、変化と曲想やその変化との関わりについて気付く。
(2)　旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。
(3)　旋律の重なりや反復、変化と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

３　指導事項との関連

Ｂ 鑑賞(1)ア　イ〔共通事項〕(1)ア
（本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音の重なり」「反復」「変化」）

４　題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
知①曲想及びその変化と旋律の重なりや反復、変化との関わりについて気付いている。	思①旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えている。 思②旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態①旋律の重なりや反復、変化と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

５ 題材設定の理由

今回の題材で〔共通事項〕として取り上げている「反復」「変化」については、２学期の「三三七拍子のリズムを基にした音楽づくり」において「反復」や「変化」という仕組みを使ってまとまりのあるリズムづくりに取り組んだ。そこでは、どのようなリズムモチーフを反復させるか、さらにそのあとの「七拍子」にあたる部分とどのように組み合わせ、変化のあるリズムに構成するかについて思いや意図をもち、一人一人がリズムをつくることができた。鑑賞では、「メヌエット」「トランペット吹きの休日」で、Ａ−Ｂ−Ａの三部形式について学習している。

また、「音の重なり」については、今年度２学期に「あの雲のように」のリコーダーによる合奏の学習

で２つの旋律がどのように重なっているのかを CD で聴いたり実際に演奏したり楽譜を見たりしながら聴き取り、重なり方によってどのような曲想になっているのかを学習している。この学習を通して、「斉奏」から「カノン」のようになり、最後に「同じリズムで違う音が重なる」ことに気付くことができた。

以上を踏まえ、本題材では、まず第１時で「歌おう声高く」で斉唱から主旋律とオスティナートによる合唱へと変化している曲の構成を学習する。その後、「かね」の「ア」を聴き、「おもなせんりつ」と「かねのせんりつ」（三音によるオスティナート）が重なっていることを知覚・感受する。第２時では、「旋律の重なり」についてさらに感受を深めるために、「かねのせんりつ」と即興的な旋律を重ねる音楽づくりの活動を設定する。第３時では、「かね」を最後まで聴き、「かねのせんりつ」の有無を手掛かりとして、楽曲全体の反復と変化について知覚・感受することで曲全体を味わって聴く活動を設定する。第４時では学習のまとめとして、担任に伝える紹介文を書く活動を設定する。

このような活動を通して「旋律の重なり」「反復」「変化」について、音楽から知覚・感受したことを、言語という客観的なものに置き換え、さらに実際に音楽をつくる活動を通して自分の思いや考えをもち、音楽や演奏のよさを味わうことができる能力を育成していきたいと考え、本題材を設定した。

６　教材について

『アルルの女』第１組曲より「鐘（かね）」（ビゼー作曲）

戯曲「アルルの女」のために作曲された付随音楽であるが、単独で演奏されることが多い組曲である。劇中、花飾りなどの準備で忙しい祝祭日の朝の場面で演奏される音楽で、全体に華やいだ気分に満ちあふれている。「ア」の部分は、3/4 拍子 ホ長調で、鐘の音を模したホルン、ハープ、第二バイオリンのピッチカート（途中まで）、ビオラによる３音の繰り返し（「かねのせんりつ」）と、それにのって演奏されるもう一つの別の旋律（「おもなせんりつ」）が重なっている。また、「イ」の部分は、6/8 拍子 嬰ハ短調（「ア」の平行調）で、フルートの旋律と弦楽器による旋律が重なっており、「かねのせんりつ」はない。「ア」に戻る前のつなぎの部分で、遠くから響いているように再びホルンによる「かねのせんりつ」が登場する。このように、「かねのせんりつ」が重なる部分が最初と最後に繰り返されているため、「アーイーア」という楽曲の構成が分かりやすい。

『歌おう　声高く』（花岡恵作詞　長谷部匡俊作曲）

「かねのせんりつ」のオスティナートと旋律の重なりを知覚・感受させるために作曲されている楽曲である。主旋律や旋律のリズムに反復が多く、児童が容易に歌うことができる楽曲の構造となっている。前半は斉唱、後半は三音がくり返されるのオスティナートと旋律が重なって合唱になっている。

『黒鍵５音音階による音楽づくり』

黒鍵の５音音階を活用し、「かねのせんりつ」のオスティナートに合わせて黒鍵による３拍子の即興的な旋律づくりをする。「かね」のアの部分の旋律の重なり方を表現で確認し、アとイの変化の知覚・感受を深めるための手段として設定し、児童が「オスティナート」「即興の旋律づくり」「聴き手」に分かれて活動し、演奏を聴いて思考することができる場とする。

7　題材の指導計画と評価計画（全４時間）

時	目標	○ 学習内容　・ 学習活動	評価規準（評価方法）		
			知・技	思	態
第１時	旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、歌ったり聴いたりする。	○旋律の重なりの知覚・感受 ・「歌おう声高く」を聴く。 ・主旋律を歌う。 ・後半のオスティナートの旋律を歌う。 ・主旋律とオスティナートの旋律を重ねて合唱する。 ・２つの旋律が重なることによる曲想の違いについて話し合う。 ・「かね」のアの部分を聴き、気付いたことや感じたことをまとめる。 ・手を動かしたりオスティナートを口ずさんだりしながら、主旋律を聴く。 ・３拍子の指揮をしながら「かねのせんりつ」を聴く。 ・２つの旋律の重なり方について、聴き取ったことと感じ取ったことをまとめる。		思① （記述、発言、聴取）	
第２時	曲想及びその変化と旋律の重なりや反復、変化との関わりに気付く。	○２つの旋律による音楽づくり ・「かね」のアの部分を聴く。 ・黒鍵の５音音階について知る。 ・木琴や鉄琴で黒鍵を使った短い旋律をつくる。 ・「かねのせんりつ」「音楽づくり」「聴き手」に分かれて２つの旋律の重なりをつくったり聴いたりする。 ・単旋律の時と旋律が重なった時との感じの違いについて、気付いたことをまとめる。	知① （聴取、発言、記述）		
第３時（本時）	旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考える。	○旋律の重なりの確認 ・主旋律と「かねのせんりつ」の重なりに気を付けて、「かね」の「ア」の部分を聴く。 ・「ア」の部分の「旋律の重なり」と曲想との関係について、聴き取ったことや感じ取ったことを確認する。 ○反復、変化の知覚・感受 ・曲の構成に気を付けながら「かね」を最後まで聴き、再現部で挙手をする。 ・感じたことや曲の構成、「かねのせんりつ」が重なっているかどうかについて話し合う。 ○旋律の重なり方の比較聴取 ・「イ」から「ア」へと変化するときの「かねのせんりつ」の重なり方に気を付けて、「かね」をもう一度聴く。 ・友達と考えを交流する。 ・「かねのせんりつ」を手掛かりにして「かね」を聴き、旋律の重なりや反復・変化と曲想との関わりについて学習カードにまとめる。		思② （記述、発言）	
第４時	旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。	○旋律の重なりや反復・変化と曲想とのかかわり ・映像資料で「かね」を鑑賞し、演奏している様子を知る。 ・旋律の重なりや反復・変化と曲想との関わりについて触れながら、「かね」の紹介文を書く。			態① （行動観察、記述）

８　本時（全４時間中の第３時）

(1)　本時の目標

旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考える。

(2)　本時の展開

時間	○学習内容　　・学習活動	☆ 指導上の留意点　配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 ５分	・「歌おう声高く」を歌う。 ○本時のめあての確認 「かねのせんりつ」に気をつけながら、くり返しやへん化を感じ取ってきこう。	☆２つの旋律が重なることによる曲想の違いを感じて歌うよう指示をする。	
展開 ３０分	○旋律の重なりの確認 ・主旋律と「かねのせんりつ」の重なりに気を付けて、「かね」の「ア」の部分を聴く。 ・「ア」の部分の「旋律の重なり」と曲想との関係について、聴き取ったことや感じ取ったことを確認する。 ○反復、変化の知覚・感受 ・曲の構成に気を付けながら「かね」を最後まで聴き、再現部で挙手をする。 ・感じたことや曲の構成、「かねのせんりつ」が重なっているかどうかについて話し合う。 ○旋律の重なり方の比較聴取 ・「イ」から「ア」へと変化するときの「かねのせんりつ」の重なり方に気を付けて、「かね」をもう一度聴く。 ・友達と考えを交流する。	☆旋律の重なりを聴き取るために必要な動きをしながら聴くよう指示をする。 ☆前時での音楽づくりの活動での経験も踏まえて意見を言うよう助言する。 ☆「アイア」で構成されていることに気付くことができるよう、再現部で挙手をする活動を設定する。 ☆「かねのせんりつ」を手で表したり口ずさんだりするなどして、確認するよう助言する。 ☆３拍子で主旋律と「かねのせんりつ」が重なる「ア」と、６拍子でフルートの二重奏と弦楽器の伴奏が重なる「イ」との違いを聴き取ることができるよう、デジタル教科書やCDを活用する。 ☆「イ」から「ア」へと変化するときに「かねのせんりつ」がどのように出てきたのかを考える場を設定する。	思②旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（記述、発言）
まとめ １０分	・「かねのせんりつ」を手掛かりにして「かね」を聴き、旋律の重なりや反復・変化と曲想との関わりについて学習カードにまとめる。 ・振り返りをする。		